

---

# 奈良県臨床細胞学会雑誌

The Journal of Nara Society of Clinical Cytology

---

第 23 号



奈良県臨床細胞学会

2023年3月発行

# 目次

## 新入会員紹介

「入会のご挨拶」	前防克也	1
「細胞検査士としてのスタート」	泉屋直輝	1
「奈良県臨床細胞学会入会のご挨拶」	伊藤玲香	2
「奈良県臨床細胞学会入会のご挨拶」	金村実和子	2
「奈良県臨床細胞学会入会にあたって」	堀口紗央里	3
(再入会)	古川直人	3

## 第36回奈良県臨床細胞学会学術集会

### 教育講演

「体腔液材料を用いたセルブロック」	濱川真治	4
-------------------	------	---

### 特別講演

「悪性体腔液の細胞診断の strategy ～細胞形態からどこまで原発巣に迫れるか?～」	河原邦光	8
---	------	---

## 第15回奈良県臨床細胞学会ワークショップ

「子宮頸部ベセスダ式報告様式 第3版に基づいた細胞診断学へのアプローチ」	豊田進司	11
「検鏡実習」	辻野秀夫	15

## 奈良県臨床細胞学会会則

## 奈良県臨床細胞学会雑誌投稿規定

## 編集後記

浦雅彦	31
-----	----

# 新入会員紹介

## 入会のご挨拶

奈良県立医科大学病理診断学講座 前 防 克 也

この度、奈良県臨床細胞学会に入会させていただいた前防克也と申します。4月で病理専攻医3年目になります。これまで主に組織診の経験を積んで参りましたが、なかなか成長を感じることができず、将来を思い悩むことが多々あります。人並みさえ難しいものだと感じます。今年度は昨年度よりも喜びのある一年となるよう、自分を励まし頑張って参ります。

細胞診については経験症例数も少なく、まだほぼ何も知らない状態ですが、少しずつその奥深さを学んで行ければと思います。よろしく願い申し上げます。

## 細胞検査士としてのスタート

奈良県総合医療センター 泉 屋 直 輝

細胞検査士になって、医療の分野で人々のサポートをすることができることになり、とても光栄です。この仕事に就くことで、医学に関連する知識を深め、実践的なスキルを磨くことができるとともに、人生に意義を持たせることができると考えています。また、患者さんの治療をサポートすることで、人々の生活の質を向上させることができるとも考えます。細胞検査士となり、日の浅い未熟な身の上ではございますが、これからも、患者さんや臨床をサポートすることを最優先に、自分自身も成長しながら、医療の分野で貢献していけたらと思います。

## 新入会員紹介

### 奈良県臨床細胞学会入会のご挨拶

医療法人桂会 平尾病院 伊藤 玲香

この度、奈良県臨床細胞学会へ入会いたしました伊藤玲香と申します。

2022年3月末まで静岡県浜松市にある聖隷浜松病院 病理診断科に所属し細胞検査士として働いておりましたが、今回縁あって奈良県に転居してまいりました。

現在は泌尿器分野を担当させていただいております。これまでの職務を通し、様々な標本をみて勉強させていただいておりますが、まだまだ先輩方には到底及ばず、知識不足を痛感しております。今後も検鏡や勉強会等を通じて知識を深めていけるよう研鑽を積んでまいりたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 奈良県臨床細胞学会入会のご挨拶

奈良市総合医療検査センター 検査課 病理細胞診係 金村 実和子

この度、奈良県臨床細胞学会に入会させていただくことになりました、奈良市総合医療検査センターの金村実和子と申します。大学生の頃に教師から細胞検査士という資格について教えていただいたことが、細胞検査士を目指すきっかけでした。私は形態学に興味があり、顕微鏡での観察力を活かすとともに、病気の早期発見へ貢献したいと思うようになりました。二年前に畿央大学の臨床細胞学研修センターに通い始め、スクリーニングを通して様々な症例を学びました。また、職場では用意していただいた標本でスクリーニングの練習をしました。一人では仕事と試験勉強の両立は困難でした。勉強をする時間をいただけたから、私は確実に細胞検査士の知識とスクリーニングの技術を身につけ、合格につながったと思っております。この経験を大事に、細胞検査士の一人として少しずつ経験を積み重ねていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

## 新入会員紹介

### 奈良県臨床細胞学会入会にあたって

社会医療法人 高清会高井病院 病理診断科 堀 口 紗央里

この度、奈良県臨床細胞学会に入会させていただきました高井病院の堀口紗央里と申します。私は当院に入職後、病理診断科への配属をきっかけに細胞診に興味を持ち、細胞検査士の資格取得を目指しました。

当院でお世話になっている方々をはじめ、勉強会などをご指導いただいた先生方のおかげで認定試験に合格することができました。

まだまだ勉強中ですが、多くの知識や技術を習得できるよう、これからも精一杯頑張っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 再入会

医療法人 健康支援 三恵 三恵クリニック 古 川 直 人

# 奈良県臨床細胞学会会則

## (名称と事務局)

第1条 本会は、奈良県臨床細胞学会と称し、奈良県医師会に所属する。

第2条 本会の事務局は奈良県医師会館内に置く。

## (目的と事業)

第3条 本会は細胞診を中心に臨床細胞学の進歩向上および普及を図ることを目的とする。

第4条 本会はその目的達成のため学術集会をはじめ、その他必要な諸事業を行う。

## (会 員)

第5条 奈良県に在住または勤務先を有する日本臨床細胞学会会員であり、且つ奈良県医師会会員ならびに県医師会会員の管理する医療機関に勤務する医師および検査技師をもって本会の会員とする。但し、会長が認めたものはその限りではない。

第6条 会員は、理事会において定める会費を納入しなければならない。

第7条 会員以外で本会の主催する学術集会、その他の諸事業に出席する者を当日会員とすることがある。

## (会員の資格の喪失)

第8条 会員が次の各号の一つに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届を提出したとき。
- (2) 本人が死亡、もしくは失踪宣告をうけたとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納し催促に応じないとき。

## (役 員)

第9条 本会は下記の役員を置く。

会 長 1名

理 事 若干名

また、本会に顧問を置くことができる。

第10条 会長は理事会にて互選により選出する。

理事は会長が会員の中から委嘱する。

役員の任期は3年とし再任はさまたげない。

第11条 会長は随時理事会を招集し本会に関する重要事項を協議し実行する。

## (会議の開催)

第12条 本会は毎年1回の総会並びに学術集会を開催する。

## (会 計)

第13条 本会の経費は会費、寄付金をもって充当する。

第14条 会費の額および納入方法は理事会に諮って会長が定める。

第15条 本会の会計は理事の内1名が管理する。会計理事は会員に前年度の会計監査を受け、報告しなければならない。

第16条 本会の会計は毎年4月1日にはじまり毎年3月31日に終わる。

## (会則の変更)

第17条 本会の会則の変更は理事会の協議を経て総会において決定する。

## (附 則)

本会則は昭和60年1月26日から施行する。

平成9年10月25日 一部改正

平成23年10月13日 一部改正

平成27年12月5日 一部改正

令和3年7月5日 一部改正

令和4年12月3日 一部改正

## 奈良県臨床細胞学会雑誌投稿規定

- 1) 投稿者の資格：投稿者は、奈良県臨床細胞学会会員に限ります。ただし特別講演などや依頼原稿は別扱いとなります。
- 2) 掲載論文：本誌に掲載するものは、奈良県臨床細胞学会学術集会の一般演題や、特別講演、スライドカンファレンス、シンポジウム等の記録、一般の原著論文や症例報告、短報、総説、図説、解説等の臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので、投稿に際しては1964年のヘルシンキ宣言（ヒトにおける生命医学(biomedical)研究に携わる医師のための勧告）を遵守して下さい。その他、各種集会の議事録、県内セミナーや勉強会の記録、検査室紹介などや連絡事項等の会員相互の協力や交流に役立つ記事も含まれます。
- 3) 提出方法：原稿は電子投稿での提出とします。Word(文書データ)、PowerPoint(写真、表など)、Excel(表データ)、JPEGを使用します。CD-R、USB、印刷物による投稿は別途、事務局にお問い合わせ下さい。
- 4) 論文の採否：提出された原著、症例報告、短報、総説等の論文は、査読を経た上、編集委員会で採否を決定します。
- 5) 校正：著者校正は、初校で行いますが、校正時の大幅な変更や加筆は避けてください。校正した原稿は指定期限内に返却して下さい。
- 6) 原稿の返却：採用された原稿一式は、雑誌印刷の完了後に返却します。
- 7) 掲載料：刷り上がり4頁までは無料とし、それ以上は著者の実費負担とします。ただし依頼原稿は例外とします。
- 8) 別刷料：本誌20部までを無料とし、特別に別冊を希望する場合は実費を請求します。
- 9) 原稿の送付先：奈良県臨床細胞学会事務局（橿原市内膳町5-5-8、奈良県医師会内、saibou@nara.med.or.jp）
- 10) 原稿作成の手引き
  - (1) 原稿の書式
    - a) 現代かなづかいの和文とし、ワープロでA4縦長の用紙に横書き1行40字程度、行間を1行として使用。
    - b) 度量衡単位はcm、mm、cm<sup>3</sup>、 $\mu$ 、m $\ell$ 、kg、mgなどCGS単位を用いて下さい。
    - c) 外国人名および適当な日本語のない疾患名、器具名、薬品名や術語などは原字をそのまま用い、タイプライター字を用いるか1マス2字ずつ活字体で記入して下さい。大文字で始めるものは、人名、固有名詞、Penicilinなどの商品名、ドイツ語名詞、文の最初にきた欧語に限って下さい。
    - d) 略語を用いる場合は、最初に完全な用語を記し、その後に（以下、○○）と略語を記入して下さい。
  - (2) 原稿の形式
    - a) 原稿の構成は1.内容抄録(500字以内)、Keywords 5語以内(原則として第1語は対象、第2語は方法、第3語以下は内容を暗示する単語とする)、2.本文(緒言、材料と方法、結果、考察)(症例報告の場合の本文は、緒言、症例、所見、考察とする)、3.謝辞、4.文献、5.図表の説明の順に記述して下さい。
    - b) 表紙には和文題名、著者名(漢字およびローマ字)(MD、CT、MTの別)、所属、郵送先住所、電話番号、e-mailアドレス、別刷り希望数を記入して下さい。表紙には頁数を入れないで下さい。
    - c) 内容抄録は500字以内にまとめて、背景、症例、結論と小見出しを付けて下さい。小見出しは論文の内容に応じて適宜設定して下さい。
    - d) 原稿の枚数：1枚800字詰めとして、症例報告(一般講演・スライドカンファレンスを含む)は4枚程度(刷り上がり2~3頁)、一般原著、特別講演寄稿や総説は10枚程度(同5~6頁)、ワークショップ原稿は2枚程度(同2頁)、を目処として下

さい。

(3) 図・表

- a) 図・表はそれぞれ番号をつけ、簡単な和文または英文の説明を付記してまとめて添付して下さい。写真は図として下さい。また、本文中の挿入希望箇所を原稿の欄外に赤字で指定して下さい。
- b) 写真説明文には染色法と倍率を入れて下さい。電顕写真ではスケールを写真に入れるか写真説明文に倍率を記載して下さい。

(4) 文献

- a) 主要文献のみを挙げることにし原著、特集は20編以内、症例報告は10編以内として下さい。総説は編数の制限を定めません。
- b) 引用した順に番号をつけて列記し、その番号を本文中の該当箇所の右肩に（あるいは右側に括弧で）記入して下さい。
- c) 文献表記はバンクーバー・スタイルに、誌名略記は日本医学図書館協会編：日本医学雑誌略名表およびIndex medicusに準じます。
- d) (雑誌の場合) 著者名（和文はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで3名まで表記し、3名をこえる場合はその後を“.他”, “et al.”と略記する）。表題（フルタイトルを記載）。雑誌名発行年（西暦）；巻：頁～頁。  
(例) 近藤裕美子、高野将人、森田剛平、他  
肉腫様肝内胆管癌と肉腫様肝細胞癌の2例。  
奈良医学雑誌。2008; 59: 175-181。  
(例) Toyoda S, Ohbayashi C, Okada H, et al. Cervical adenocarcinoma with stromal micropapillary pattern. Diagn Cytopathol. 2016; 44: 133-6.
- e) (単行本の場合) 著者名 標題 発行所；発行年。なお、引用が単行本の一部である場合は発行年の次に：頁～頁。を記載する。  
(例) Kurman R, Carcangiu M, Herrington C, et al. WHO Classification of Tumors of Female Reproductive Organs IARC. Lyon;

2014.

- 11) 投稿の締め切り：毎年、3月末日を投稿の締め切りとします。
- 12) 本誌の発行：原則当雑誌の発行を毎年、12月とします。
- 13) 著作権について：提出後の論文の著作権は本学会に帰属し、著者は電子媒体による公開を承諾するものとする。
- 14) 規定の改正：本規定は編集委員会の議を経て改正することがある。

(附 則)

平成22年10月21日  
平成27年6月25日一部改正  
平成29年10月19日一部改正  
平成30年10月2日一部改正  
令和元年6月4日一部改正  
令和元年10月30日一部改正



## 編 集 後 記

奈良県臨床細胞学会誌第23号発刊に際し、御協力いただきました関係者各位に厚く御礼申し上げますとともに、発刊時期のタイミングが数ヶ月遅れました事を、深くお詫び申し上げます。

継続するコロナ渦の中、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？

ここ数年は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、各種学会の学術集会はWeb形式による非対面形式の開催や規模縮小での開催が多くなってきております。奈良県臨床細胞学会におきましても、2021年12月の第36回学術集会は対面式ではありましたが規模を縮小した開催となり、2022年1月の第15回ワークショップではWeb形式による開催となりました。2022年12月の第37回学術集会および2023年1月の第16回ワークショップは、規制や制限に若干の緩和がなされ、通常どおりの開催が可能となりました。

私見ではありますが、Web形式による集会の参加は、ひたすらPCに向かっての自己研鑽であり、現地に足を運ぶことなく閲覧期間も数日間設けられていることが多いなどから、大変便利に思う反面、皆様方の生のお顔を拝見できないことから、何か物足りなさを感じる様にも思われます。1日も早くコロナ問題が終息し、コロナ前の状況に戻る事を祈るばかりです。

2022年3月には前会長であられました大林千穂先生が退任され、その後は藤井智美先生を新会長に、新たな体制で本会の運営が始まっております。今後とも引き続き、皆様方の御支援と御協力を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

2023年3月吉日

編集委員 浦 雅彦

---

### 奈良県臨床細胞学会

第 23 号

発 行 令和5年3月

編集委員 豊田 進司

森田 剛平

浦 雅彦

発行人 藤井 智美

発行所 奈良県臨床細胞学会  
(奈良県医師会館内)

印刷所 株式会社 春日

---